

大学生ならではの
視点や専門知識を
生かした政策提案をもとに
「奈良の未来」を創ります！

令和4年度
県内大学生が創る
奈良の
未来事業
ジャーナル

CONTENTS

- P 2～3 …… 奈良の未来を考える県内大学生が政策提案をプレゼン
- P 4～5 …… 令和5年度に事業を実施します!!
- P 6 …… 様々な提案をいただきました!
- P 7 …… こんな成果がありました!
- P 8 …… これまでの受賞政策提案一覧

 **奈良県**

令和5年3月発行

奈良の未来を考える 県内大学生が政策提案をプレゼン

県内大学生が創る奈良の未来事業とは？

奈良県では、平成24年度から「県内大学生が創る奈良の未来事業」を実施しています。この事業は、多様化・複雑化する県政の様々な課題を解決するため、県内の大学等に在籍する学生の皆さんから政策提案を募集するものです。応募いただいた政策提案のうち、公開コンペで選考された特に優秀な提案を事業化し、学生の皆さんにも参加いただいたりして事業を実施しています。



奈良県議会棟本会議場での公開コンペ

6グループが
事前審査を突破！

4月から6月にかけて、県内の大学等に在籍する学生に政策提案を募集したところ、13件の提案がありました。いずれも、大学生ならではの視点や専門知識が生かされた政策提案でしたが、事前の書類審査の結果、公開コンペには5大学6グループの参加が決定しました。

個別相談会で提案内容を
ブラッシュアップ！

7月下旬、公開コンペに向けて提案内容をより良いものへとブラッシュアップするため、県の関係部局との個別相談会を設け、提案のあった政策分野の現状や課題、県の取組等について大学生グループと県職員が意見交換を行いました。大学生は自分たちの専門分野について、県の担当者から直接話が聞ける機会とあって、熱心に質問をしていました。

公開コンペの結果、最優秀賞
に選ばれたのは…

8月30日(火)、奈良県議会棟本会議場で公開コンペを開催しました。審査委員以外にも多くの傍聴者がおり、その前で8分という短い時間の中、どのグループも堂々と落ち着いた様子で熱のこもったプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションは、自分たちの提案をわかりやすく伝えるため、それぞれに工夫がされていました。各審査委員からの質問には、想定外のものもあったようですが、これまで培った知識や経験を踏まえた真摯な受け応えがなされていました。

すべてのグループの発表終了後、「説明力」、「効果性・発展性・独創性」、「実現可能性」の観点から、審査委員による厳正な審査がなされ、最優秀賞には、「心理教育アプローチを活用して、不登校生徒数の減少やいじめの解消率の向上を目指す取組」を提案した帝塚山大学のグループが選ばれました。

審査副委員長の栗山道義さんからは、「どの提案も専門知識や技術、思いを、地域にある様々な課題に生かせるかを考えていた。最優秀賞を受賞した提案については、今後、県の方も借りて良いものを作っていただくことを楽しみにしている」との講評がありました。



栗山審査副委員長による講評



表彰式



審査委員からの質問に答える大学生





公開コンペでプレゼンする大学生



令和5年度に 事業を実施します!!

政策提案の概要

全国的に増加傾向にある不登校やいじめは、コロナ禍による子どもたちへのストレスなどもその背景にあると推測される。

大学生、専門家、奈良県が連携して「心理教育推進チーム」を地域に発足させ、心理教育アプローチを用いて子どもたちの心の健康をサポートし、「生きる力」をばぐくむことで、不登校やいじめの予防・解消につなげていく。

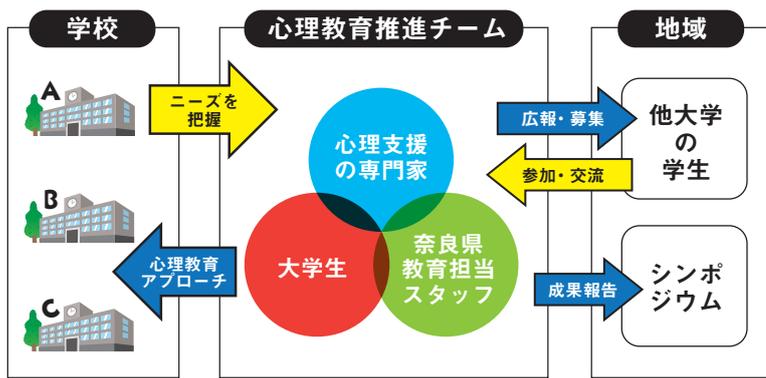


プロジェクトチームでの検討

事業化に向けた 検討状況

令和4年度に最優秀賞を受賞した政策提案について、県内大学生と県関係課職員によるプロジェクトチームを9月に立ち上げ、令和5年度の事業化に向けた検討を行いました。プロジェクトチームでは、心理教育の実施時期、コロナ禍における適正な実施方法、心理教育実施前の研修、対象校のニーズ調査の方法、シンポジウムの開催方法などの検討を行いました。

また、1月下旬には先進事例調査として、同志社大学心理学部の石川教授に心理教育を実施した事例や



心理教育推進チームの役割



先進事例調査・同志社大学

注意点等について貴重なお話を伺いました。
今後、先進事例調査で学んだことを生かしつつ、県と帝塚山大学が協働して事業を進めていきます。

が創る奈良の未来



帝塚山大学心理学部
心理学科 4年
きよはら やまと
清原 大和

政策提案をしたきっかけは？

所属しているゼミの活動で県内の小学校で心理教育を行った経験から、心理学の授業で学んだことが地域の子どもたちのためになることにやりがいを感じ、引き続き同じメンバーでこの支援を続けていきたいと思い政策提案に挑戦しました。

政策提案をしてよかったことは？

奈良県の課題を探してその解決

策をみんなで考えて申請書やプレゼンの形でまとめるという貴重な経験ができたことです。また、大学で先生方や先輩方に練習に付き合っていたらいただいていたので、皆さんに最優秀賞という報告ができて嬉しかったです。

今回の経験を今後どのようにつなげていきたいですか？

ひとりではなく、みんなで協力して行うことの大切さを学んだので、今後チームとしてまとまっていく際に今回の経験を生かしていきたいです。また、それぞれのメンバーの特徴を生かして、今後の活動に臨みたいです。

事業化への検討を行った感想は？

自分たちが考えていたことと、それを現場で実際に行うことの難

達成目標

心理教育アプローチを通して、児童の心の健康をサポートし、コミュニケーション力などの他人と良い関係を作る力である「生きる力」を育むことで、不登校やいじめの予防・解消を目指す。

短期目標

心理教育
アプローチ実践
と効果の把握

中期目標

各学校への
フィードバック
+
不登校数の減少
いじめ解消率の向上

長期目標

不登校数
全国平均以下
いじめ解消率
全国平均以上

令和5年度事業への参加に向けた抱負をどうぞ！

しざやギャップというのは、話し合ってみて初めて感じたことでした。そのギャップを検討し、価値観を共有していく過程は、貴重な経験でした。

引き続き、大学で学んだ心理学に関する知識を生かして、県内の子どもたちの心の健康をサポートするという方針を大切にしたいです。また、私たち大学生自身も事業を行うなかで一緒に成長したいと思っています。

期待される効果

学校

教員が日常の子どもたちとの関わりに生かせるスキルを獲得

県全体

該当する県民ニーズ調査の重要度・満足度の向上

大学

心理教育アプローチの実践、他大学との交流による大学生の成長

子どもたちの生きる力の育成 不登校やいじめの予防・解消



審査委員と記念撮影

様々な提案を

いただきましたきまりました！

令和4年度
優秀賞

「健康カフェ」
「111」から

～奈良から作る
地域交流モデル～

政策提案の概要

大学生が中心となつて高齢者をメインターゲットとした通いの場所としてのカフェをつくる。カフェは会話を通して健康意識の向上や実際の健康管理、そして日常生活をより楽しむ場として機能する。



審査委員からの質問に答える大学生

政策提案をしたきっかけは？

高齢者の会話を増やしたいと思ひ、薬局の待ち時間を使い、健康カフェを実験的に導入していただきました。より多くの方に利用していただく方法を模索していたところ、大学に提案募集の案内が来ており、奈良県と協業できることに興味を持ち、提案しました。



奈良県立医科大学
医学部医学科 3年
なかざわ ゆうさ
中澤 有佐



政策提案をしてよかったことは？

行政、特に県目標の政策としてどのようなものかを考え、きつかけになり、視野が広がりました。また、各分野に精通した審査委員の方々にプレゼンを聞いていただき、貴重なアドバイスをいただくことができました。

今回の経験を今後どのようにつなげていきたいですか？

いただいたアドバイスをもとに、大学付近のカフェで取組を始める予定です。取組自体を継続するための広報や集客にも力を入れており、健康カフェを全国に広めていきたいと考えています。

令和4年度
優秀賞

「空き家みんなで
見守り隊」

政策提案の概要

県と市町村と住民が連携すること、適正な管理を促す仕組み「空き家みんなで見守り隊」で、今ある空き家を良い状態で保ち、地域の空き家問題を徐々に解消する。定期的に空き家の写真を家主に送り、家主が望めば草刈りも有料で実施する。



審査委員からの質問に答える大学生

政策提案をしたきっかけは？

全国的に空き家問題は深刻さを増しており、奈良県でも空き家の数は増加傾向にあります。空き家の状態は様々ですが、現状をより悪くしないようにすることから、空き家問題解決の糸口になればと思ひ、提案しました。



畿央大学健康科学部
人間環境
デザイン学科 3年
まごおか りんほ
正岡 凜保



政策提案をしてよかったことは？

本提案は大学だけでできるものではなく、空き家所有者、見守り隊、市町村、県などの協力があってはじめて達成できます。多くの方々に本提案を知ってもらうことで実際に実施してくださる地域が増えると考えていますので、政策提案して良かったと思います。

今回の経験を今後どのようにつなげていきたいですか？

今回の政策提案で、空き家問題の現状について深く知ることができました。今後はより多くの市町村で実施できるように政策提案で見つけた反省点や課題を解決しつつ、本提案を固めていきたいと考えております。

こんな成果がありました！

令和元年度に最優秀賞を受賞した政策提案について、県で事業化し県内大生学生の皆さんにも参加していただき、令和2年度から令和4年度に事業を実施しました。



政策提案は柿ワインを製造する際に大量に出る絞りカス(柿の酒粕)を有効利用するため、柿の酒粕を使ったスイーツを開発するという内容でした。これを具体化するため、食と農の振興部農業水産振興課で3年間の事業を実施しました。まず、学生が柿の酒粕を添加した様々なスイーツの試作品を製作して試食会等で評価し、商品化候補としてパウンドケーキが選定されました。その後、民間事業者に、その商品化候補の販売商品用のレシピとパッケージデザイン作成、市場性調査を委託しました。これらの取組の結果、柿の酒粕の入ったパウンドケーキが令和5年2月に県内企業の(株)奈良祥樂で商品化されました。



商品化したパウンドケーキ



市場アンケート調査

コラム・県の担当者にインタビュー

◎農業水産振興課で令和2年度から継続して実施している「柿の酒粕を用いた特産品開発推進事業」について、県の担当者にインタビューしました。

Q1: 「柿の酒粕を用いた特産品開発推進事業」については、3年間継続して事業実施されていますが、担当課としてどういったところに手応えを感じていますか？

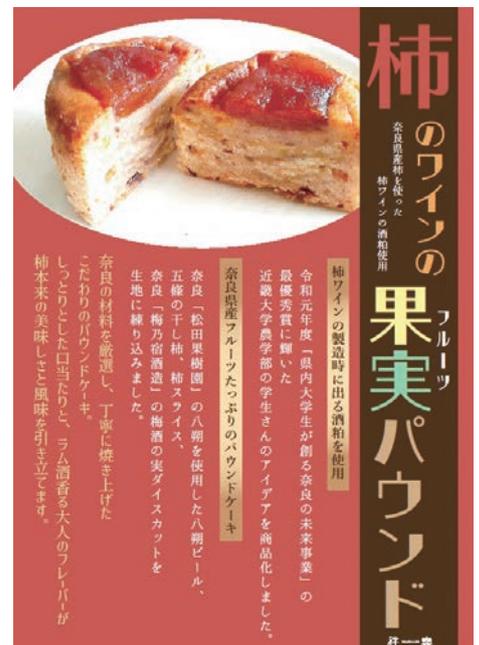
A1: 大学生には単なる提案に終わらず、担当教授の指導のもと、試作品のレシピ作りと改良、さらに柿の酒粕をスイーツに活用するために適した処理加工方法を検討していただくことができました。

Q2: 本事業は、大学生が試作品を提案し、民間事業者による商品化することを目標とされていましたが、事業を円滑に進めるにあたって工夫したことはありますか？

A2: 大学生のアイデアが斬新なものであっても、実際の商品化のためには、市場性や生産コスト、販売先を十分検討し、量産化に合わせたレシピの作成等が必要となります。最終年度には民間事業者にその点について検討してもらいました。

Q3: 今後の「柿の酒粕を用いた特産品開発推進事業」の展望を教えてください。

A3: 今年度で事業は終了しますが、民間事業者は商品の本格的な販売を希望されています。奈良の新しい特産品として、息の長い商品になっていくことを期待しています。



市場調査の試作品紹介用POP



これまでの受賞政策提案一覧



平成24年度から始まった「県内大学生が創る奈良の未来事業」において、
これまで最優秀賞、優秀賞を受賞した政策提案は以下のとおりです。

提案年度 (応募提案数)	賞	政策提案名	提案者(所属・学年は受賞当時のものです。)
令和4年度 (13提案)	最優秀賞	子どもたちの心の健康をサポートする～心理教育アプローチの活用～	帝塚山大学心理学部心理学科4年 鈴木 諒 他9名
	優秀賞	健康カフェ「ここから」～奈良から作る地域交流モデル～	奈良県立医科大学医学部医学科3年 中澤 有佐 他4名
	優秀賞	空き家みんなで見守り隊	畿央大学健康科学部人間環境デザイン学科3年 正岡 凜保 他2名
令和元年度 (15提案)	最優秀賞	”規格外果実”を”規格外”のお土産に	近畿大学農学部応用生命化学科4年 松尾 啓史 他3名
	優秀賞	和歌発祥の奈良で現代の「短歌を詠む」文化継承を大学生の手で	奈良大学文学部文化財学科3年 小江 陽南子 他4名
	優秀賞	在来作物を用いた農山村の活性化	近畿大学農学部環境管理学科4年 文 賀紀 他9名
平成30年度 (12提案)	最優秀賞	奈良・スタディサイクリング ～自転車を用いた体験学習型地域振興～	奈良県立大学地域創造学部地域創造学科2年 天野 光生 他2名
	優秀賞	交換留学 ならt o奈良 ～次世代に繋がる、北部・南部の小学生の交流と魅力発信～	奈良教育大学教育学部教科教育専攻 数学教育専修1年 尾崎 優真 他6名
	優秀賞	これが僕らのまち図鑑	畿央大学健康科学部人間環境デザイン学科3年 阿草 憲蔵 他3名
平成29年度 (16提案)	最優秀賞	学んで守ろう僕らの森 ～中大連携森林学習プロジェクト	近畿大学農学部環境管理学科3年 奥芝 理那 他2名
	優秀賞	小学生を対象としたパラリンピック教育プロジェクト	奈良教育大学教育学部教科教育専攻 保健体育専修3年 小田 陽介 他2名
	優秀賞	留学生による奈良の旧正月フェスティバル	奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程 社会生活環境学専攻1年 林 君嶽 他9名
平成28年度 (23提案)	最優秀賞	農地の窓口	近畿大学農学部農業生産科学科3年 中井 隆教 他2名
	優秀賞	Sight Feeling NARA 感じてみつけ！ あなたの奈良 魅力再発見プロジェクト	奈良女子大学大学院人間文化研究科住環境学専攻1年 金村 麗華 他5名
	優秀賞	女子大塾～女子大生による県南部学習支援～	奈良女子大学生活環境学部住環境学科4年 小澤 初葵 他5名
平成27年度 (18提案)	最優秀賞	緊急課題！奈良の将来の医療をつくる多職種医療学生の集い	奈良県立医科大学医学部医学科6年 峯 昌啓 他8名
	最優秀賞	女子大生ハンティングサークル(狩りガール)	奈良女子大学大学院人間文化研究科 博士前期課程住環境学専攻1年 竹村 優希 他6名
	優秀賞	不登校の子どもたちに大学生ができること ～大学間の垣根を越えて～	帝塚山大学大学院心理科学研究科 心理科学専攻2年 酒井 希恵 他9名
	優秀賞	かえろうら！十津川 ～空き家のDIY改修&活用プロジェクト～	奈良女子大学大学院人間文化研究科 博士前期課程住環境学専攻1年 森 里沙 他9名
平成26年度 (20提案)	最優秀賞	楽しく健康！健楽(けんぎょう)農業で遊休地を有効活用	奈良女子大学大学院人間文化研究科 博士前期課程住環境学専攻1年 土佐野 美裕 他5名
	優秀賞	無病促菜～野菜パワーで元気100%な奈良県へ！～	帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科3年 高瀬 美桜 他9名
	優秀賞	奈良栄養クリニック設立計画	奈良女子大学生活環境学部食物栄養学科4年 祝迫 景子 他4名
	優秀賞	萃点を灯す ～春日奥山から未来への文化継承の地	奈良女子大学大学院人間文化研究科 住環境学専攻2年 大石 茉由佳 他2名
平成25年度 (13提案)	最優秀賞	科学の旅 ～シーズンフリーのワンストップサイエンスツーリズム～	奈良教育大学教育学部学校教員養成課程 理数生活科学コース4年 荻 奈津希 他5名
	優秀賞	自然の恵みリスタート事業	奈良女子大学大学院人間文化研究科 博士前期課程環境学専攻1年 濱川 真衣 他4名
	優秀賞	大学生がつくる幼児のためのスポーツイベント	奈良教育大学教育学部保健体育専修3年 赤木 誠五 他2名
平成24年度 (27提案)	最優秀賞	泊ってみ奈良？～町屋ステイで奈良を知る～	奈良県立大学地域創造学部1年 横田 紘大 他8名
	優秀賞	奈良県産材製の児童用学習机・椅子・教卓の普及	奈良女子大学生活環境学部住環境学科4年 笹川 祐里 他3名
	優秀賞	Meet 20s' 絆 プロジェクト ～20歳の若者の出会いで絆をつくる	帝塚山大学経営情報学部経営情報学科3年 森崎 直人 他7名

*令和2年度・3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止 <表紙で使用した写真について> 公開コンペでプレゼンする各政策提案の代表者6名